

**MITSUBISHI** 三菱電機 パッケージエアコン

**リモコン**
**据付工事  
説明書**
**販売店・工事店さま用**
**換気設定・ユニットの機能選択  
・自己診断・リモコン診断のしかた**

下記設定される場合は、本据付工事説明書を参照してください。

- 換気設定  
フリープラン機種でロスナイとの連動運転を行う設定が必要な場合のみ設定をしてください。  
※上位コントローラが接続される場合は、上位コントローラより設定をしてください。  
(スリムエアコンでは、設定はできません)
- ユニットの機能選択  
スリムエアコンで据付状態により、ユニットの機能選択データを変更する場合に設定を行ってください。(フリープラン機種では、設定はできません)
- 自己診断  
各ユニットの自己診断(異常履歴の検索)をすることができます。
- リモコン診断  
リモコンから操作ができない場合に、リモコンの正常/不良を判断します。

**1. 換気設定(フリープラン機種のみ設定できます)**

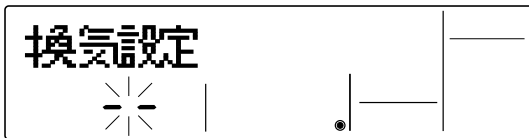
 リモコンが接続されている室内ユニットのロスナイ登録、登録した内容の検索、登録抹消設定を行う場合この操作を行います。  
ここでは、室内ユニットアドレス05、ロスナイアドレス30の場合を例に説明します。

**操作手順**

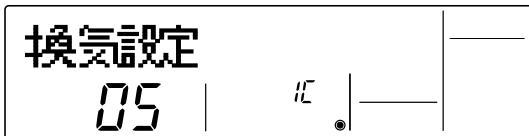
- ①リモコンの(運転/停止)ボタンで空調機を停止の状態にします。  
このとき、以下の停止表示でなければ、②の操作ができません。



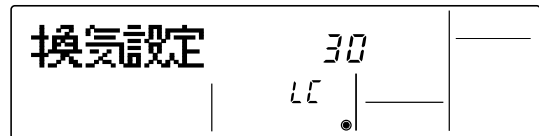
- ②(フィルター)と(ルーバー)ボタンを同時に2秒押しますと下図の表示になり、現在リモコンが接続されている室内ユニットが登録しているロスナイの検索を行います。



- ③登録検索結果  
●室内ユニットのアドレスと登録設定されたロスナイのアドレスを交互表示します。



室内ユニットアドレスと室内ユニット表示



ロスナイアドレス表示とロスナイ表示

- ロスナイが登録設定されていない場合



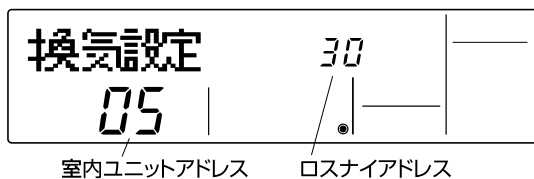
- ④ここで、何も設定する必要がなければ、(フィルター)と(ルーバー)ボタンを同時に2秒押し、終了します。

新たにロスナイを登録する必要がある場合は、1. [登録操作](#)へ  
ロスナイの検索をしたい場合は2. [検索操作](#)へ  
いまの登録されているロスナイを抹消する場合は、3. [抹消操作](#)へ

# 1. 換気設定(つづき)

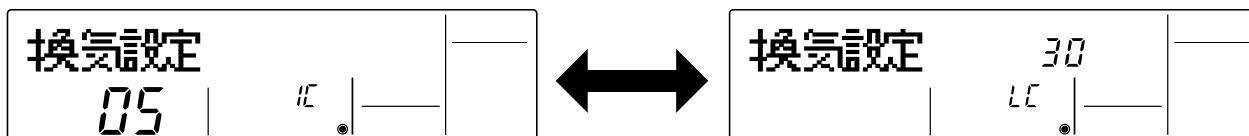
## 1. 登録操作

- ⑤ ロスナイと登録設定したいリモコンが接続されている室内ユニットのアドレスを設定温度  $\nabla$ 、 $\triangle$  ボタンを操作し、設定します。(01~50)  
⑥ 登録設定したいロスナイのアドレスを時間設定  $\nabla$ 、 $\triangle$  ボタンを操作し、設定します。(01~50)

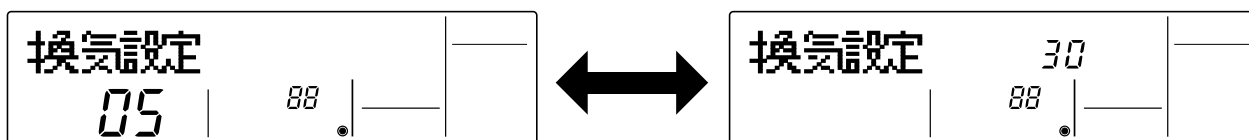


- ⑦ **試運転** ボタンを押し、設定した室内ユニットアドレスとロスナイアドレスの登録を行います。

- 登録の完了表示  
室内ユニットのアドレスと「IC」、登録設定されたロスナイのアドレスと「LC」を交互表示します。



- 登録エラー表示  
登録がうまく行かなかったとき室内ユニットのアドレスと登録設定されたロスナイのアドレスと交互表示



- 登録設定した室内ユニットまたはロスナイが存在しない場合、登録ができません。  
登録設定した室内ユニットに別のロスナイが登録済みの場合、登録ができません。

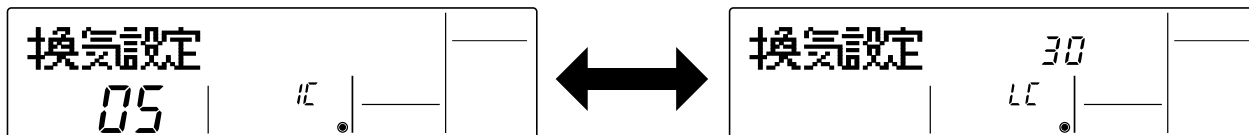
## 2. 検索操作

- ⑧ ロスナイの検索をしたいリモコンが接続されている室内ユニットのアドレスを設定温度  $\nabla$ 、 $\triangle$  ボタンを操作し、設定します。(01~50まで)



- ⑨ **タイマメニュー** ボタンを押し設定した室内ユニットアドレスに登録されたロスナイアドレスの検索を行います。

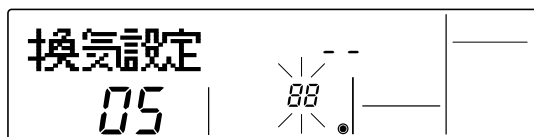
- 検索の完了表示 (ロスナイ接続有りのとき)  
室内ユニットのアドレスと「IC」登録設定されたロスナイのアドレスと「LC」を交互表示します。



- 検索の完了表示 (ロスナイ接続なしのとき)



- 指定した室内ユニットのアドレスが存在しない場合





## 2. ユニットの機能選択（スリム機種のみ設定できます）

- 据付状態に応じて、リモコンにより下記の機能選択を行うことができます。  
（リモコンからしか操作できません）

### 機能選択項目

①00号機を選択して設定する項目【表1】

モード	設定内容	モード番号	設定番号	初期設定	チェック欄	備考
停電自動復帰	無し	01	1	○		電源回復後、約4分間待機が必要です。
	有り		2			
室温検知位置	同時運転室内ユニット平均	02	1	○		
	リモコン接続室内ユニット固定		2			
	リモコン内蔵センサー		3	—※1		
ロスナイ接続	接続無し	03	1	○		
	接続有り（室内ユニット外気取入れ無し）		2			
	接続有り（室内ユニット外気取入れ有り）		3			
スマートデフロスト （同時霜取り回避）	有効	20	1	○		※2
	無効		2			

※1 —印はその機能がないことを示します。

※2 PAR-34MAリモコン（別売）使用時のみ本機能が使用できます。

②01～04号機またはAL号機を選択して設定する項目【表2】

- 単独システムの室内ユニットに設定する場合は、01号機を選択して設定します。
- 同時ツイン、トリプルの各室内ユニットごとに設定する場合は、01～04号機をそれぞれ選択して設定します。
- 同時ツイン、トリプルの各室内ユニットすべて同一に設定する場合は、AL号機を選択して設定します。

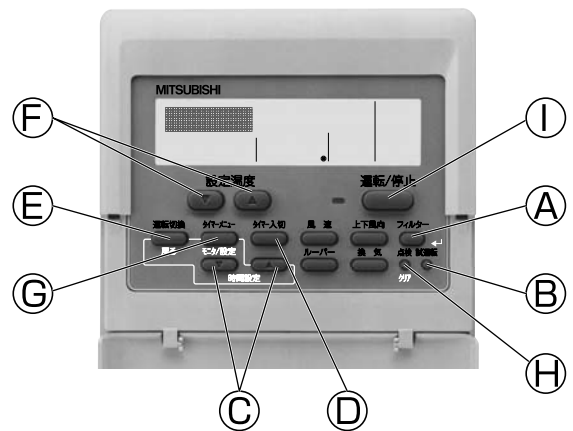
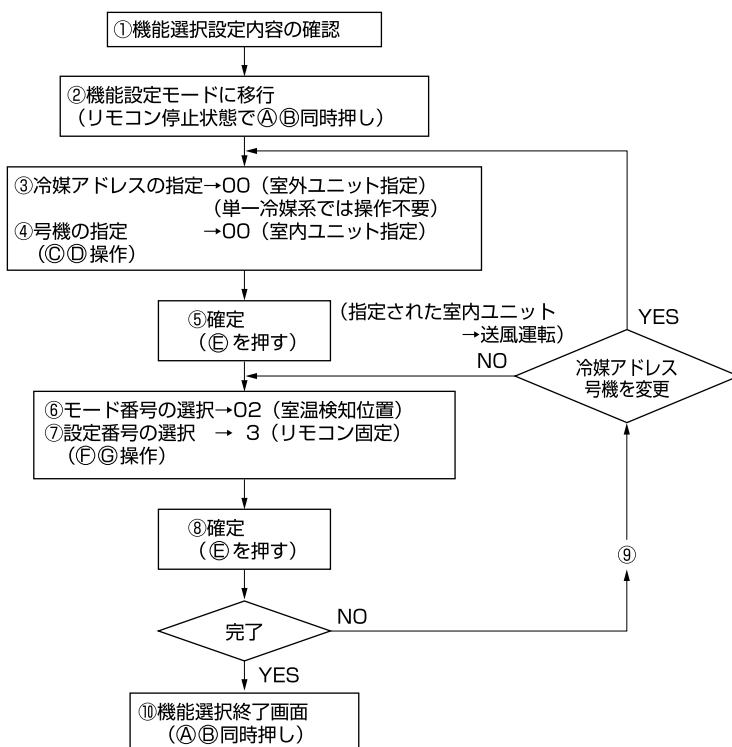
モード	設定内容	設定番号	モード番号	初期設定	チェック欄	備考
フィルターサイン	100時間	1	07	○		
	2500時間	2				
	フィルターサイン表示無し	3				
風量	静音	1	08	○		
	標準	2				
	—	3				

※初期設定は、PS-RP-KA8の設定を示しています。

【お願い】工事完了後、機能選択により室内ユニットの機能を変更した場合は、必ず全ての設定内容を上表のチェック欄に○印等で記入してください。

### 機能選択の流れ

まずは機能選択の流れをつかんでください。ここでは【表1】の”室温検知位置”の設定を例に説明します。  
（実際の操作については【操作手順】①～⑩をご覧ください）



## 2. ユニットの機能選択(つづき)

**操作手順** 変更が必要な場合のみ設定してください。

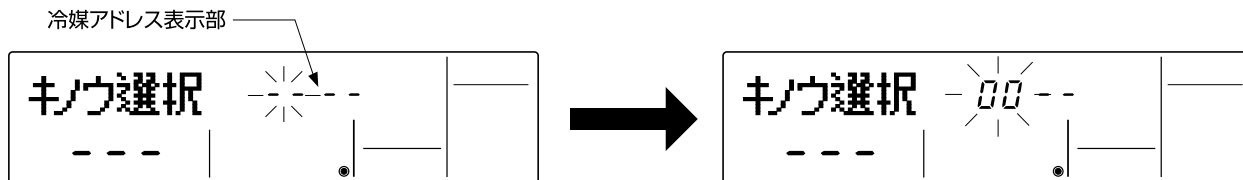
①機能選択の各モードの設定内容を確認してください。機能選択にて各モードの設定内容を変更した場合、そのモードの機能が変わります。  
②～⑦に従い現在の全設定内容を確認し、【表1】、【表2】のチェック欄に記入の上、設定を変更してください。なお、工場出荷時の設定については4ページ【表1】、【表2】をご覧ください。

②リモコンを停止にします。

Ⓐ **フィルター** と Ⓑ **試運転** ボタンを同時に2秒以上押します。  
**キノウ選択** が点滅し、しばらくするとリモコンの表示が下図の表示になります。

③室外ユニットの冷媒アドレスNo.を合わせます。

Ⓒ **▽** **△** (時間設定) ボタンを押すと冷媒アドレスNo.が00～15の間で前後するので機能選択したい冷媒アドレスに合わせます。(単一冷媒系では操作不要です。)



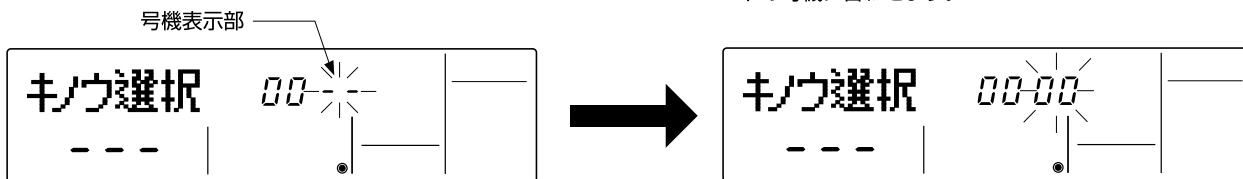
※ **キノウ選択** および室温表示部に「BB」を2秒間点滅後、停止状態となる場合は、通信異常が考えられます。伝送路の近くにノイズ源がないか確認してください。

**お願い** 途中で操作を間違えた場合は、一度⑩にて機能選択を終了し、再度②より操作を行ってください。

④室内ユニットの号機を合わせます。

Ⓓ **タイマー入切** ボタンを押し、号機表示部「--」を点滅させます。

Ⓒ **▽** **△** (時間設定) ボタンを押すと号機が00→01→02→03→04→ALと変化するので機能選択したい室内ユニットの号機に合わせます。

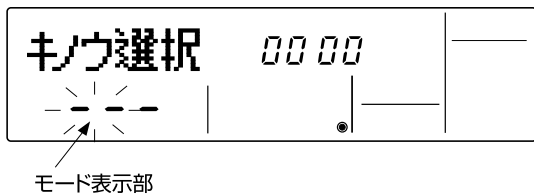


※モード1～3、20を設定する場合は、「00」に合わせてください。  
※モード7、8を設定する場合は、下記のとおり設定してください。  
●各室内ユニットごとに行う場合:「01～04」に合わせてください。  
●全室内ユニット一括に行う場合:「AL」に合わせてください。

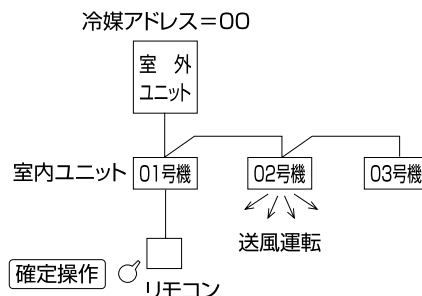
⑤冷媒アドレス、号機の確定

Ⓔ **運転切換** ボタンを押し、冷媒アドレス、号機を確定します。しばらくするとモード番号表示部「--」が点滅します。

Ⓔ **運転切換** ボタンにて確定操作をすることにより、確定された室内ユニットが送風運転を開始します。機能選択する号機の室内ユニットがどこにあるのか知りたい場合は、これにより確認してください。なお、号機が00、ALの場合は選択した冷媒アドレスの全室内ユニットが送風運転します。



例) 冷媒アドレス00、号機=02確定時の場合



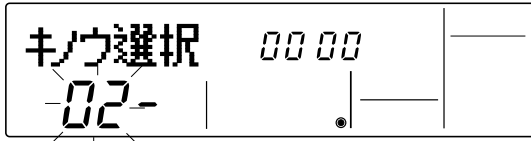
※室温表示部に「BB」が点滅表示する場合、選択した冷媒アドレスがシステム内にありません。また、号機表示部が「F」となり、冷媒アドレス表示部とともに点滅表示となる場合は、選択した号機が存在しません。②、③にて冷媒アドレス、号機を正しく設定してください。

※累冷媒系統でグルーピング時、指定した冷媒アドレス以外の室内ユニットが送風運転する場合、ここで設定した冷媒アドレスの重複が考えられます。再度、室外ユニットのディップスイッチにて冷媒アドレスの確認してください。

## 2. ユニットの機能選択(つづき)

### ⑥モード番号の選択

Ⓕ (設定温度) ボタンにより設定したいモード番号を設定します。(設定可能なモード番号のみ選択できます。)

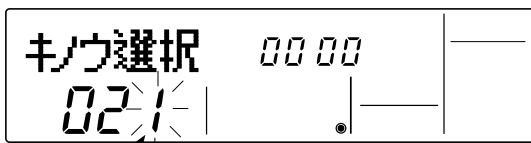


モード番号表示部    モード番号02=室温検知位置

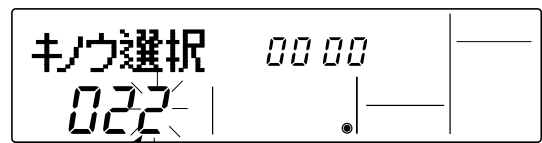
### ⑦選択したモードの設定内容を選択します。

Ⓖ (タイマーメニュー) ボタンを押すと、現在設定されている設定番号が点滅します。これにより現在の設定内容を確認してください。

Ⓕ (設定温度) ボタンにより設定番号を選択します。



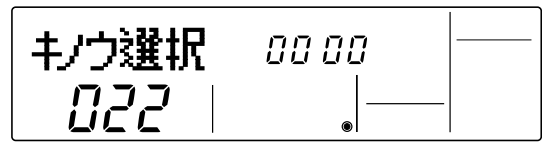
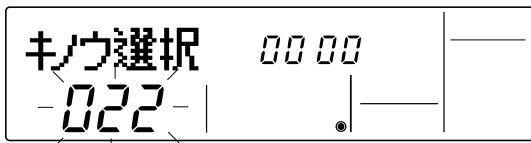
設定番号1=同時運転室内ユニット平均



設定番号2=リモコン接続室内ユニット固定

### ⑧③～⑦の設定内容を確認させる。

Ⓖ (運転切換) ボタンを押すと、モード番号と設定番号が点滅し登録を開始します。モード番号、設定番号の点滅が点灯に変わり、設定が完了します。



※モード番号および設定番号が「--」となり室温表示部に「88」が点滅表示となる場合は、通信異常が考えられます。伝送路の近くにノイズ源がないか確認してください。

⑨更に、他の機能選択を行う場合は、③～⑧の作業を繰り返し行ってください。

### ⑩機能選択を終了します。

Ⓐ (フィルター) と Ⓑ (試運転) ボタンを同時に2秒以上押します。しばらくすると機能選択画面が解除され、空調機停止画面へ復帰します。



※機能選択終了後、30秒間はリモコンより操作しないでください。

### お願い

工事完了後、機能選択により室内ユニットの機能を変更した場合は、必ず全設定内容を【表1】、【表2】のチェック欄に○印などで記入してください。

### 3. 自己診断

●リモコンの点検ボタンを連続2度押して自己診断(各室内ユニットの異常履歴の検索)ができます。

リモコンにて各室内ユニットの異常履歴を検索します。

①自己診断モードに切換えます。

Ⓜ(点検) ボタンを3秒以内に2回押すと、下図の表示になります。



自己診断対象アドレス表示

スリム機種 : 自己診断対象冷媒アドレス

フリープラン機種 : 自己診断対象アドレス

②自己診断したいアドレスまたは、冷媒アドレスNo.を合わせます。

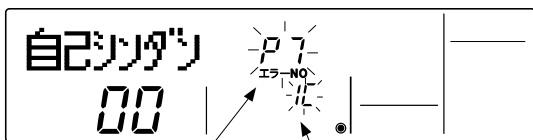
Ⓜ(設定温度) ボタンを押すと01~50または、00~15の間で前後するので自己診断したい自己診断対象アドレスNo.または、冷媒アドレスNo.に合わせます。



変更操作してから約3秒後、自己診断冷媒アドレスが点灯から点滅に変わり診断処理を開始します。

③診断結果 <異常履歴がある場合>

(異常コードの内容は室内ユニットの据付工事説明書またはサービスハンドブックをご覧ください)



異常コード

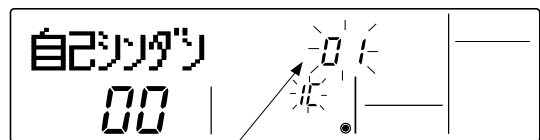
スリム機種 : 2ケタ

フリープラン機種 : 4ケタ

異常検出もとの属性



(交互に表示)

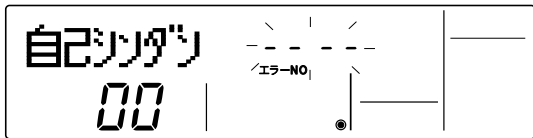


スリム機種

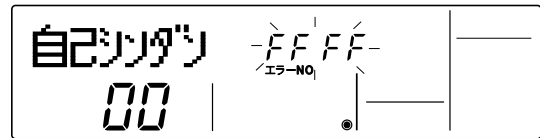
: 号機2ケタ

フリープラン機種 : アドレス3ケタ

<異常履歴がない場合>

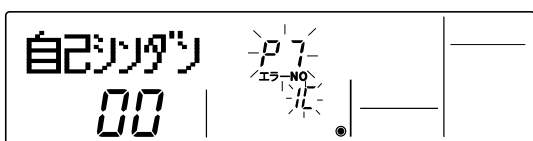


<相手が存在しない場合>

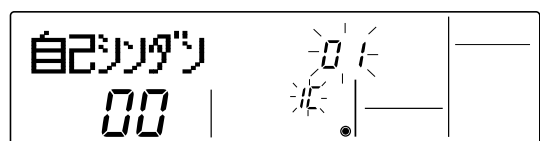


④異常履歴リセット操作

③の診断結果表示画面にて異常履歴を表示させます。

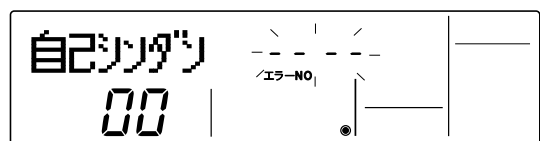
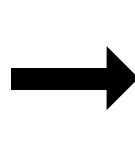


(交互に表示)



①(タイマー入切) ボタンを連続で3秒以内に2度押しすると自己診断対象アドレスまたは、冷媒アドレスが点滅します。

異常履歴がリセットされた場合、下図の表示になります。なお、異常履歴リセットに失敗した場合は異常内容が再度表示されます。



⑤自己診断の解除

自己診断の解除には次の2通りの方法があります。

Ⓜ(点検) ボタンを3秒以内に2度押し → 自己診断を解除し、自己診断前の状態になります。

Ⓜ(運転/停止) ボタンを押す → 自己診断を解除し、室内ユニットが停止となります。

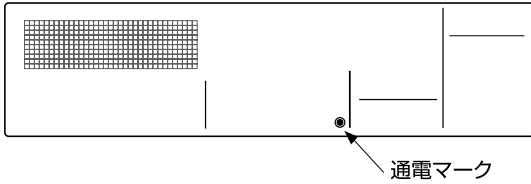
(操作禁止状態時、この操作は無効です。)

## 4. リモコン診断

●リモコンからの操作がきかない場合、本機能によりリモコン診断を行ってください。

①まずは通電マークを確認してください。

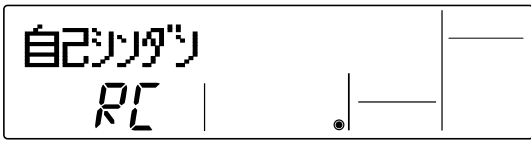
リモコンに正常な電圧 (DC 12V) が印加されていない場合、通電マークは消灯しています。  
通電マークが消えている場合は、リモコン配線、室内ユニットを点検してください。



②リモコン診断モードに移行

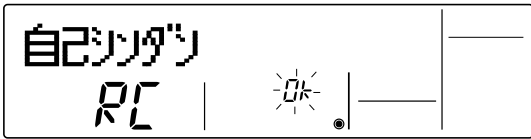
⊕ (点検) ボタンを5秒以上押し続けると、下図の表示になります。

Ⓐ (フィルター) ボタンを押すと、リモコンの診断を開始します。



③リモコン診断結果

リモコン正常時



リモコンに問題はありませんので他の原因を調査してください。

リモコン不良時

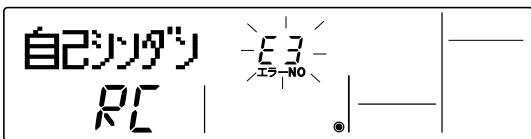
(異常表示1) 「NG」が点滅→リモコン送受信回路不良



リモコンの交換が必要です。

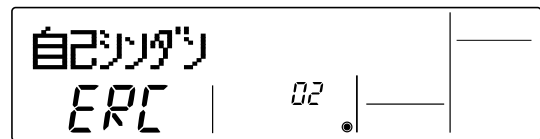
リモコン診断したリモコン以外に問題が考えられる場合

(異常表示2) 「E3」「6833」「6832」が点滅→送信不可



伝送線にノイズがのっている、あるいは室内ユニット、他のリモコンの故障が考えられます。伝送路、他のコントローラを調査してください。

(異常表示3) 「ERC」とデータエラー数を表示→データエラーの発生



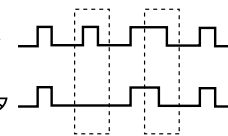
データエラー発生数 (最大66個)

データエラー発生数とはリモコンの送信データのビット数と実際に伝送路に送信されたビット数の差を意味します。この場合、ノイズなどの影響で送信データが乱れています。伝送路を調査してください。

⇒ データエラー発生数が02の場合

リモコンの送信データ

伝送路での送信データ



④リモコン診断の解除

⊕ (点検) ボタンを5秒以上押し続けると、リモコン診断を解除し、「PLEASE WAIT」、運転ランプが点滅し、約30秒後、リモコン診断前の状態に戻ります。